

コミュニティ・スクールだより

第21号

名張市教育委員会事務局発行
令和3（2021）年7月20日

文部科学省 コミュニティ・スクールの 在り方等に関する検討会議 Part.1

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）は平成29年の法改正によって設置が努力義務となり、全国的な設置数は増加傾向にあります。保護者や地域住民の学校運営への参画や地域と学校が連携・協働した取組が行われるなどの一定の成果が出てきています。一方で地域と学校の連携・協働体制の在り方や進捗に、学校間や学校種の差異があることなどが課題となっています。「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議」は、法改正から5年を迎えることから、今後の学校運営協議会の活動の充実に向け、文部科学省が外部有識者の協力を得て検討を行うために設置したものです。

検討事項として、

- (1) コミュニティ・スクールの在り方について
 - (2) コミュニティ・スクールの設置促進、活動の充実について
 - (3) その他、地域と学校の連携・協働に関することについて
- の3つがあげられ、これまでに3回の検討会が開かれ検討が重ねられ、コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議中間まとめ（骨子案）が検討されました。

(https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_chisui02-000016237_8.pdf)

その中間まとめの中で、コミュニティ・スクールの推進の必要性やこれからのコミュニティ・スクールの在り方等について、今後の検討事項が次のようにまとめられています。

（コミュニティ・スクールの意義、役割） 【一部抜粋】

○ コロナ禍だからこそ見えてきた学校の本質もある。校長や教職員だけでなく、保護者や地域住民が参画し、目標の共有・その目標達成のための対話・協働、そして評価する令和型の新たな学校改革が必要である。

研修資料等に活用可

コミュニティ・スクールだより

第22号

名張市教育委員会事務局発行
令和3（2021）年7月27日

文部科学省 コミュニティ・スクールの 在り方等に関する検討会議 Part.2

前号に続き、中間まとめの中で、これからのコミュニティ・スクールの在り方等について、今後の検討事項が次のようにまとめられています。

（総論） 【一部抜粋】

○ コミュニティ・スクールは学校運営の在り方、学校そのものを見直すもの。教職員や学校運営協議会の委員だけでなく、社会総掛かりで教育にかかわり、誰もが地域の教育の担い手であるという風土を作っていく原点にあるべき。

○ コミュニティ・スクールは立ち上げることがゴールではなく、継続性を持つ仕組みとして地域に根差したものとしていくことが重要。

（これからのコミュニティ・スクールに求められる役割・機能）

○ コミュニティ・スクールは、セクターを超えたつながりで社会課題を解決していくという実践をまさに積み重ねてきたもの。これまでの取組で得られた様々な知見をコミュニティ・スクールへ戻していくことで大きな可能性を持っている制度ではないか。

○ 学校の課題について地域と学校が共有し、互いにアイデアを出し合いけるような機能や体制を持つことが重要。

○ コミュニティ・スクールの在り方を考えるにあたり、地域学校協働活動や社会教育主事の役割も重要。地域学校協働活動を盛んにしていくためには、その学校の周りに豊かな社会教育の活動があることが重要。

検討会議は、12月まで継続して開催される予定です。今後、コミュニティ・スクールをツールにして創っていく学びの姿が見えてくることになると思います。



「学習指導要領」前文には

これからの学校は

- 自分の良さや可能性を認識
- 他者を尊重・人々と協働・社会の変化を乗り越え
- 豊かな人生を切り拓き、社会の創り手となる

コミュニティ・スクールの推進・充実をめざして！

教育課程を通して

- 「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有
 - 必要な学習内容をどのように学び
 - どのような資質・能力を身に付けられるようになるか
 - 社会との連携及び協働により実現を図る
- ＝「社会に開かれた教育課程」の実現

地域の協力体制
(地域学校協働活動)

コミュニティ・スクール
(学校運営協議会)

学習指導要領を踏まえた 教育活動の更なる充実

- 教育水準を全国的に確保
- 各学校が特色を生かし創意工夫を重ね
- 教育実践や学術研究の蓄積を生かす
- 児童生徒や地域の現状や課題を捉え
- 家庭や地域社会と協力する

全ての大人に期待される役割

- 生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え
- 一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていく
- 教職員・学校関係者・家庭・地域の人々
- 児童生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割

「名張で教育を受けてよかった！」
「名張で育ってよかった！」
と実感できる
子どもの育成

ふるさとの未来を託せる子どもを育てるために

コミュニティ・スクールだより

第23号

名張市教育委員会事務局発行
令和3（2021）年8月3日

学校運営協議会を 充実させるためのポイント

市内小中学校では、1学期を無事終了することができました。1学期には、コロナ禍での第1回学校運営協議会の開催となりましたが、書面決議や会議時間の短縮、開催時期の変更等、各学校の実情等を考慮した中での開催となり、大変ご苦労をおかけしました。
ここで、下記のポイントをチェックしながら、これまでの学校運営協議会の運営を振り返り、夏季休業中や2学期以降に向けた取組の充実に生かしていただきたいと思います。

◆コミュニティ・スクールの仕組みを有効に活用するポイント

- 「めざす子どもの姿」「めざす学校の姿」等の目標やビジョンが、具体的に明確である。また、それらを全教職員が共有し、全校体制でコミュニティ・スクールの取組が推進されている。
- 学校の課題や目標、ビジョンを学校・家庭・地域が共有し、学校支援や地域貢献等の具体的な取組が企画されている。
- 子どもの変容をもとに取組を評価し、改善に向けた協議がなされている。
- 学校運営協議会の取組が、教職員の校務分掌や地域づくり組織、PTA等の取組と連動している。



◆学校運営協議会の開催にあたって、成果を生み出すポイント

開催前

- 校長と会長等が協議会のねらいを確認したり、協議の方向性を明確にするための打合せを行ったりする。
※協議事項が「めざす子どもの姿」の実現に向けた内容になっているか。」「学校運営の充実に向けた内容であるか。」について検討を行う。
- 協議を充実させるため、必要な資料を委員に事前配布するなど、協議事項について意見をもって出席できるように工夫する。



開催時

- 活発な意見の発表や議論ができる雰囲気づくりをする。
- 開始・終了の時刻を厳守する。
- 学校課題等の情報をわかりやすく提供・説明する。
- 熟議の時間を十分確保するなど、参加者から幅広く意見を取り入れる工夫をする。
- 協議したことを、①すぐに取り組めるもの、②継続的に協議が必要なもの、③時間をかけ、様々な調整をしながら実現していく必要があるものなどに整理する。



開催後

- 協議した内容は全教職員で共有するとともに、保護者や地域住民にも学校だよりやホームページ等で広く発信し、情報の共有に努める。
- 協議会で議論した内容をもとに、めざす姿の達成に向けて、できることから具体的な協働活動（学校運営への参画、学校支援の充実、地域貢献の場づくり）に結び付けていく。
- 協議内容や協働活動の見える化を図る。

コミュニティ・スクールだより

第24号

名張市教育委員会事務局発行
令和3（2021）年12月2日

令和3年度 教育実践交流会 開催

～コミュニティ・スクールの推進・充実～

11月27日（土）に令和3年度名張市教育実践交流会を開催しました。この教育実践交流会は、子どもたちにとって望ましい教育環境や学校等における教育実践について、関係者が一堂に会して共通理解を図り、取組の発展につなげる機会が必要であることから、教育課題や重点取組の一つをテーマに開催することになりました。

本年度は、令和2年度に市内全ての小中学校が学校運営協議会設置校（コミュニティ・スクール）となったことを踏まえ、「コミュニティ・スクールの推進・充実」をテーマに実施しました。

当日は、100名を超える方の参加をいただき、錦生赤目小学校と北中学校の実践発表に引き続き、短時間ではありましたが、全体会の中で発表いただいた4名の方と参加いただいた皆様との意見交流を行うことができました。

最後には、三重県教育委員会事務局小中学校教育課の森清指導主事に名張市の取組についてご助言をいただきました。



全体会でのご意見から・・・

全体会で地域の皆様から、「ふるさとを愛する気持ちを持ってもらいたい、地域の良さを学んでもらいたい」「学校は地域の中心地であるから、入りやすい、親しみやすい学校づくりをしてほしい」「学校のお役に立てることがうれしい」「地域が学校をバックアップして、子どもたちを一人前にするために頑張っていく」等の意見が出されました。これは、子どもたちの学びや成長を中心に据え、コミュニティ・スクールに関わる皆さんに共通した思いであると感じました。



☆錦生赤目小学校の実践発表☆

「コミュニティ・スクールから見てくるもの～これからの学校と地域のつながり～」
発表者：校長 谷口雅彦 さん、学校運営協議会会長 飯本寧男 さん

素晴らしいと感じたことは、学校運営協議会で、学校からの一方的な説明に終わらず、具体的なテーマを設定して、毎回熟議を行っているということです。その時々が必要となるテーマについて、学校や地域に何ができるかということを議論し、具体的な取組につなげているということは、まさに、学校運営協議会の本来の姿であると思いました。どうしても、毎年行っている学校行事についての話が中心となっているという学校が多い中、大変意義深い取組であると思います。また、地域貢献の場づくりにおいても、子どもが参加するだけでなく、参画する取組にしていくということも素晴らしい。そこに、学校支援ボランティアの方々ที่หลากหลายな形で協力くださることによって、学校と家庭、地域が一体となって、地域の子どもの成長を支えていただいているということが伝わってきました。会長さんが、「学校や地域が変わってきた、地域が学校に親近感を感じている」とお話しいただいたのは、学校運営協議会で、熟議を重ねて、それを実行しているからだと思います。子どもたちや教職員、そしてボランティアや地域の方々のどちらにとっても意義深いものになっていると思います。

【県教委小中学校教育課 森清指導主事の助言より】



☆北中学校の実践発表☆

「より実働的な学校運営協議会をめざして」
発表者：校長 山崎博史 さん、学校運営協議会副会長 古谷久人 さん

コミュニティ・スクールの組織づくり、体制づくりについて教えていただきました。学校運営協議会だけでなく、学校運営部会、学校支援部会、地域連携部会の3部会の部会長という組織があるというのが、特徴的だと思いました。その会で、学校運営協議会のあり方や持ち方について常に検討し、また、しっかりと打ち合わせを行うからこそ、それぞれの部会が担当する分野も多岐にわたりますが、北中学校に関わる全ての方々が自分事として捉えて、立ち上げから大切にされている当事者意識を持って活動を進めているというように思いました。円滑な学校運営協議会のために、事前に資料を配布したり、熟議のテーマを予告したりするという取組や、学校運営協議会について、教職員がなかなか関わりを持っていないという課題もある中、その意見や思いを反映させるということも素晴らしいと思いました。

【県教委小中学校教育課 森清指導主事の助言より】

～市内全ての学校、地域、学校運営協議会で～

今後は、校長をはじめ先生方や地域の皆さんが集まる機会等に、それぞれの学校運営協議会の運営やコミュニティ・スクールの取組等を共有し、学校と地域をつなげ、より広がりのあるものにしていきましょう。また、中学校区内の情報を共有することが、より一層、実効性のあるものになっていくと考えています。

学校・家庭・地域・児童生徒のつながる仕組み＝コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールだより

第25号

名張市教育委員会事務局発行
令和3（2021）年12月8日

「地域とともにある学校」の運営に必要な機能 ～学校運営協議会の運営・協議の改善～

「地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）」の運営に欠かせない機能（3つの視点）があります。「熟議」「協働」「マネジメント」の3つです。その中でも「熟議」は、学校運営協議会において、学校と地域が、ビジョンや課題、情報等を共有し議論をすることで意思を形成する重要な場であり、学校と地域が連携・協働していくための基盤とされています。「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決をめざす対話のことです。

地域連携を深め、地域とともにある学校づくりを進めるためには、学校運営協議会の協議の一層の充実が欠かせません。この中で「熟議」が活発に行われる市内小中学校の学校運営協議会が増えました。「コロナ禍でもできる取組」や「コロナ禍だからこそできる取組」を地域とともに創意工夫して進めている学校があり、子どもたちや地域にとってよりよい成果も現れてきています。報告や説明、意見交流で終わるのではなく、学校の課題の解決につながる充実した協議や熟議となるよう工夫していきましょう。今後も、学校運営協議会（各部会を含む）での熟議が盛んになり、学校教育目標やめざす子ども像の実現に向けた保護者・地域との連携・協働が進むことを願っています。

熟議で共有したビジョンや目標の体制に向けて、力を合わせて「子どもたちのため」に取り組みます。熟議で出た意見は、すぐに全てが実行できるわけではありませんが「できることから協働を始める」ことで、徐々に多くの人が関わる協働体制が構築されていきます。

【運営・協議の工夫】



各学校運営協議会の熟議の様子・工夫

箕曲小学校



2グループに分かれて熟議、発表
テーマ
「少人数を生かした学校教育・発信方法・地域との連携」



学校・地域・PTAでそれぞれ取り組んでいくことを確認しました。

蔵持小学校



タブレット端末を活用して、前回の付箋を拡大して見ることができました。

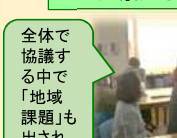
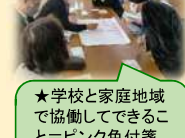
グループで話し合ったことを発表しています。（全体交流）

前回の熟議で「どんな子どもになってほしいか。できることは。」についての意見をまとめて提示しました。

3グループに分かれて熟議、ブレインストーミングをして意見をまとめ、発表
テーマ
「学校と地域と一緒にやれることは」

話し合ったことをまとめました。また確認ができるように見える化しました。

比奈知小学校



2グループに分かれて熟議、発表
テーマ「『自分が好き』と感じられる子どもの育成について」

次は、学校、家庭、地域それぞれができることを考えていきます。

熟議したことから、区分しました。
①すぐに取り組めるもの
②継続的に協議が必要なものの
③時間をかけて様々な調整しながら実現していく必要があるもの

グループで話し合ったことを発表しています。

コミュニティ・スクールだより

第26号

名張市教育委員会事務局発行
令和3（2021）年12月15日

連携・協働の視点 ～学校と地域をつなぐ 防災訓練～

11月20日（土）に行われた名張市総合防災訓練に際し、市内の中学校では、学校や地域の実情に応じた防災訓練・防災学習が実施されました。

桔梗が丘中学校では、全校生徒が居住地域で行われる地域防災訓練に参加することにより、地域の方とふれあい、地域住民の一員であることを自覚し、災害発生時には地域住民と協働した行動がとれることを目的に実施されました。学校運営協議会でも訓練に向けて熟議を行いました。



- ① 地域の方による防災講話
- ② 屋内簡易テント設置
- ③ 地域住民との交流
- ④ 屋外テント設置
- ⑤ 消火訓練

桔中

★コミュニティ・スクールの視点★

「CSとして何に取り組んでいるか」ではなく「取組ありきではなく、取組をして終わってしまうのではなく、

1. 子どもたち（児童生徒）により変容が見られるか。
 2. 学校が組織体として機能し、教員の豊かな教育活動が主体的に展開しているか。
 3. 地域住民の学びや動きが広がり、住民のつながりが生まれ、地域が元気になっているか。
- の3点が重要です。

名張中学校では、在宅時での災害を仮定して、生徒個々が地域の避難所（一時避難所と市指定避難所）を確認しました。予測不能な災害に対し、自分の身を守るだけでなく、地域の一員として自分の安全を確保したうえで、災害時に積極的に活躍できるように、地域に出向いての学習を進めました。タブレットを活用するなど帰宅後も課題に取り組みました。

名中



【一時避難所参集】

【市指定避難所参集】

北中学校では、薦原地区、美旗地区からなる「北中学校避難所運営委員会」を中心に避難所運営訓練が行われました。生徒会のメンバーを中心に訓練に参加し、他の生徒はその様子を視聴し、zoomを活用したオンラインで防災学習を行いました。災害が起こった時に、地域の一員として何ができるかを考える機会となりました。

北中



【コロナ対策健康チェック】

【物資運搬】

【屋内テント設置】

「中学生は。地域の戦力だ！」
と言ってもらいました。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

学習指導要領では「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と地域が共有し共に連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を子どもたちに育んでいくことが重視されています。そのためには校長の意図やマネジメントが重要です。

この理念に基づき学校の教育目標やビジョンを保護者や地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちの成長を育む「地域とともにある学校」の実現につなげていきましょう。

コミュニティ・スクールだより

第27号

名張市教育委員会事務局発行
令和3（2021）年12月22日

つつじが丘小6年生 地域へアイデア提案 「地域をよりよくするために！！」

つつじが丘小学校で12月3日（金）、6年生111人と地域づくり組織の関係者らで、地域をよりよくするための方法を話し合う懇談会が開かれました。児童からは交通安全やごみ問題の改善策等のさまざまな提案があり、参加した地域の方々には児童の声にメモを取るなど熱心に耳を傾け、コメントを返していました。

地域からは、地元のつつじが丘・春日丘自治協議会や子どもの安全を守る会NPO法人コアラ、つつじが丘交番勤務の警察官ら12人が出席。児童たちは10月以降、家庭科と総合的な学習の時間を使って地域の課題を調べ、タブレット端末を使ってプレゼンテーションの準備を進めてきました。

当日の発表では、2～10人前後でグループになり、1クラス3グループの計9グループが発表をしました。【以下、地域課題（テーマ）】
▽地域づくり（空き家対策）▽交通安全▽環境問題（ゴミ対策、サル被害防止）▽公園遊具の設置等

「ごみのない町にするために」では、ごみやたばこの吸い殻が落ちていくのを目にするところから、きちんとしたごみ箱を設置することや、ポスターの掲示、ごみ拾いイベントの実施等の提案がされました。また、交通事故防止のためにオリジナル反射材を作る提案をしたグループは、ドライバーが夜間に歩行者を見つけやすくなるだけでなく、つつじが丘のご当地キャラクター「えみらる」をあしらうことで「地域の宣伝や活性化につながる」と提案の説明がありました。

「提案をもとに行政に要望をしたり、自治会でも取り組んでいきたい」との回答がありました。

地域の出席者からの、横断歩道に設置している横断旗を新たに作ってほしいとの依頼に、児童は全員の拍手で承諾しました。

コミュニティ・スクールから
スクール・コミュニティへの実践
学校と地域がWin=Winの関係に！

「子ども（学校）を核とした地域づくり」への取組

本市では、「地域とともにある学校づくり」と「子ども（学校）を核とした地域づくり」の一体的な推進を目指して努めています。「地域とともにある学校づくり」は、少しずつ成果として現れてきましたが、「子ども（学校）を核とした地域づくり」は、更なる取組が必要であると認識しています。そこで、「子ども（学校）を核とした地域づくり」について、提唱されてきた社会的背景や国の動向等を共有したいと思います。

「子ども（学校）を核とした地域づくり」が提唱されてきた主たる社会的背景

◆社会の動向

- ・少子高齢化の急激な進行
- ・グローバル化や情報化の進展
- ・地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域教育力の低下

◆教育を取り巻く状況

- ・児童生徒数の減少
- ・子どもの規範意識等への課題
- ・学校が抱える課題の複雑化、困難化

学校課題を地域・学校の協働により解決を図ることを通じて、地域社会のつながりを再生し、地方創生の動きへ進展してきたこと等、地域のシンボルである学校が注目。

国の動向「学校を核とした地域づくり」の提唱

～平成26年閣議決定「まち・ひと・しごと創生総合戦略」【政策概要】～

学校を核として、学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進めるとともに、郷土の歴史や人物等を取り上げた地域教材を用い地域を理解し、愛着を深める教育により、地域に誇りを持つ人材の育成を推進し、地域力の強化につなげていく。（一部抜粋） ⇨「まち・ひと・しごと創生法」の成立（H26.11）

～「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」（R3.6.18）～

「地方創生を担う「人づくり」のための多様な主体の連携」

コミュニティ・スクールと地域協働活動の一体的推進による、地域と学校の連携・協働体制を構築するための取組を一層推進する。（中略）まちづくりのプラットフォームになり得る学校を核とした地域づくりを推進するとともに、地域とともにある学校づくりを推進する。（一部抜粋）

国の動向からも、いかにコミュニティ・スクールの仕組みが期待されているかがわかります。地域や社会を担う人材を育て、地域を元気にする、地域（ふるさと）に誇りや愛着をもつ子ども（後継者）を育成するには、幼少期からの地域の関わりが必須となります。学校と地域のつながりの中で、地域の良さを再発見し、学習と協働活動を通して地域を活性化し、地域社会総掛かりで温かい風土を育てていきたいと思います。

本市でもコミュニティ・スクールの取組により、地域・学校の連携・協働による学校づくりが進み、「子ども（学校）を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）」が少しずつ進んでいます。更なる一歩前へ向けて教育委員会事務局としても支援してまいります。

コミュニティ・スクールだより

第28号

名張市教育委員会事務局発行
令和4（2022）年1月5日

学校と地域の連携・協働 地域を考え 地域に発信！！

交通安全標語、あいさつ標語の立て看板設置

つつじが丘・春日丘自治協議会では、1学期からつつじが丘小学校の6年生に交通安全標語を、南中学校の3年生にあいさつ標語を募集しました。該当学年の児童生徒が考えた標語を、地域住民や教職員が投票により各10点ずつ優秀作品を選びました。この取組は、3年目となりました。

また、選ばれた標語を記した立て看板も自治協議会の協力により、学校周辺に設置されました。

10月には、各学校では、自治協議会からの表彰式も行われました。

育てたい子どもの姿の共有
学校課題、地域課題の解決に向けて！

地域のコミュニティの輪を広げる標語展

12月、桔梗が丘自治連合協議会生活安全部会の主催で、桔梗が丘小学校、桔梗が丘南小学校、桔梗が丘東小学校の6年生に、地域コミュニティの輪を広げるために標語を募集し、児童たちの作品が桔梗が丘市民センターのロビーに展示されました。

子どもたちは、地域を安全・安心で笑顔あふれる住みよいまちにしたいとの思いで、交通安全、防災、環境、ごみ問題、あいさつ等の標語を考えました。

学校と地域が共通の目標や育てたい子どもの姿の実現に向けて、意図を持って連携・協働することにより、子どもを核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）につながっていくことを願っています。

コミュニティ・スクールのメリット・効果

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みを導入することによるメリットとして、主に以下の3つが挙げられます。（参考：文科省 コミュニティ・スクールのつくり方）

① 組織的・継続的な体制の構築 = 持続可能性

校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」です。

② 当事者意識・役割分担 = 社会総掛かり

学校運営協議会の協議や熟議の場を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できます。

③ 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者全てが当事者意識をもち、「役割分担をして連携・協働による取組」ができます。

コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画していく仕組みです。当事者として、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人にとって様々な効果が生れます。

【子どもにとって】

- 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって、安心・安全な生活ができます。

【地域住民にとって】

- 経験を生かすことで、生き甲斐や自己有用感につながります。
- 学校が社会的につながり、地域のよりどころとなります。
- 学校（子ども）を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- 地域の防犯・防災体制等の構築につながります。

【保護者にとって】

- 学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

【教職員にとって】

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となります。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により、子どもと向き合う時間が確保できます。

山口県の取組に学ぶ

11月1日に「地方創生フォーラムin山口」が開催され、研修用動画が専用Webページにて、令和4年1月末までご覧いただけます。下記URLから受付フォームにアクセスしてお申し込みください。
受付フォーム ▶▶ <https://business.form-mailer.jp/fms/dc1bf387157245>

コミュニティ・スクールだより

第29号

名張市教育委員会事務局発行
令和4（2022）年1月12日

学校と地域が連携・協働することによる効果

～名張中学校 コミュニティ・スクール成功に向けて～

学校運営への参画に向けて～学校運営協議会の充実～

名張中学校では、学校運営協議会の活性化及びコミュニティ・スクール（以下、CS）の推進・充実に向けて、学校運営協議会委員と教職員が一体になり、当事者意識を持った連携・協働による工夫を凝らした運営や取組が行われています。

【第1回学校運営協議会 運営の工夫】

- ①担当教員Aから、名張中学校や生徒の様子についてDVDによる映像と、「名中愛」についての説明。
- ②教頭から、昨年度のCSの取組について報告。
- ③校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。
- ④担当教員Bから、本年度の活動について、CSの年間計画表（下表）をもとに説明した後、協議。



資料だけでなくICTをフルに活用

校長と会長・副会長が事前
打合せをしっかりと行う。

年次	項目	内容	担当者	備考
4月	開会式	開会式（校長挨拶、教頭挨拶、協議会委員挨拶）	校長	
5月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
6月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
7月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
8月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
9月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
10月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
11月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
12月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
1月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
2月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	
3月	協議会委員説明会	協議会委員説明会（協議会委員説明、協議会委員説明）	協議会委員	

一目でわかる
工夫された
CS年間計画表

【第2回学校運営協議会 運営の工夫】

- ①校長から、パワーポイント（44スライド）で学校の現状報告。
- ②担当教員Bから、本年度のCSの活動状況について報告。
 - 放課後寺子屋について
 - ・取組の現状と成果、課題についてスライドで説明。
 - ・参加生徒へのインタビュー動画を視聴。
 - 防災訓練（11月20日）の企画について
 - ・在宅時での災害を仮定した訓練の実施について説明。
- ③来年度のCSに向けて
 - 校長から本年度の成果報告と課題提起。
 - 具体的な取組や支援について、一歩前に進んだ活動になるように協議。



校長だけでなく、教職員と
地域住民が、顔の見える関
係づくりを積極的に行う。

「今年できることからやっという意見が出されました。」

《名張中学校 放課後寺子屋》

めざす学校像である「どの子ども生き生きと輝く学校」にない毎日が幸せと感じることができる学校の実現をめざして、教育課程外となる放課後に、地域の方々の力を借りて、生徒の学びや居場所づくりの支援をする。

【活動日・場所】 週一回程度、放課後、図書室を中心

【活動内容】

- (1) 補充学習等の学習支援（教科学習を苦手としている生徒を中心とした支援）
- (2) 学習支援ではなく、図書室に居ていただき、可能な時には、生徒の思いや悩み等を聞いていただくなど、生徒の心の居場所づくりの支援。



2月に行う第3回学校運営協議会で、来年度に向けて、活動のさらなる充実や学校教育目標について、意見交流を行う予定。

CSの設置が努力義務化（平成29年4月）され、現在の全国のCSの数は、11,856と増え続けています。CSの普及が進む中で、学校と地域が互いにパートナーとして「Win=Win」の関係であり続けるためには、安定的にCSに参画する人材を確保したり、学校と地域との連携・協働の関係を維持・発展したりするといった視点が必要であるといわれます。言い換えると「持続可能性」のための視点です。子どもの学びや学校教育活動を通じて多くの人が関わることを大切にしながら、人と人がつながり続ける。いかにつなげるか、つながり続けられるかが、「地域とともにある学校づくり」の成功の鍵だと思えます。

学校・家庭・地域・児童生徒のつながる仕組み＝コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールだより

第30号

名張市教育委員会事務局発行
令和4（2022）年1月19日

学校と地域が連携・協働 錦生赤目小学校

～「地域とともにある学校」をめざして～

コミュニティ・
スクール推進目標

すべては、子どもたちのために

～学校・家庭・地域が協働して、子どもを育てる～

錦生赤目小学校には、令和3年11月27日に開催した名張市教育実践交流会で、実践発表をしていただきました。コミュニティ・スクールの推進・充実に向けて、校長のリーダーシップのもと、学校と二つの地域（錦生地域、赤目地域）が一体となり、互いのつながりや信頼関係を大切に、地域人材や資源等を生かした、連携・協働による運営や取組の一部を紹介します。

【学校運営協議会 運営の工夫】

- ◎年間3回を基本として開催 運営協議会委員が参加しやすいように設定
 - 第1回…午前開催、第2回…午後開催、第3回…夜間開催

- ◎具体的なテーマを設定して、熟議を実施

※ これまでの熟議テーマの例

- ◆地域（ふるさと）を愛する、地域（ふるさと）で住みつけたいと思わせる子どもたちを育てるために、学校・家庭・地域ができることは何か？
- ◆「持続可能な学校支援の仕組みづくり」のために、どのようなことをしていくとよいのか。また、保護者や地域に啓発していくにはどうすればよいのか？
- ◆コロナ禍において、今、学校・家庭・地域ができることは何か？
- ◆コロナ禍での学校・家庭・地域の「協働」の機運を高めるために、子どもたちをはじめ、みんなが元気の出る取組ができないものか？
- ◆子どもたちと地域と一緒に学びをつくるために。

★参加者の声★

- ◇話し合うことで、年々学校への親近感が高まっている。「地域が好き！」と言える子らを育てたい。
- ◇地域の行事に子どもたちが参画していくことも検討してはどうか。学校と地域が双方向で交流できるとよい。



熟議することで、めざすものや
ゴールを共有し、協働へつなげる

～コロナ禍での学校・家庭・地域の「協働」の機運を高めるために～

コロナ禍で、子どもたちをはじめ多くの人が、一人ひとりの絆やつながりを持ちにくい環境となり、子どもたちの学びや育ちにも大きな影響を与えています。そのような中で、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、「子どもたちの豊かな学び」に向けて、協力・連携して取り組むことが重要であると考えました。そこで、「協働」の機運を高めるために、関わる多様な立場の人が、思いを出し合い、コロナの感染状況を踏まえたうえで、「今、どのようなことができるのか？みんなが元気の出る取組が展開できないか？」と、その実現・実行に向けたアイデアを出し合うなど、「熟議」を深めました。

コロナ時代のチャレンジ！！

・今だからこそ、気付けことがある
・今だからこそ、できる教育活動がある
・今だからこそ、鍛えられる力がある

《学校から地域へ》

- ◎これまで校区の高齢者の方々には、むかし遊びを教えていただいたり、運動会を参観いただいたり、子どもたちとふれあい、子どもの姿を見ていただく機会があったが、残念ながら今はコロナ禍でできない。
- ◎校区で、一人暮らしをしている高齢者の方に対して、「自分たちと一緒にコロナ禍を頑張っていこう！」という、「はげましのメッセージ」を作成したらどうか。

子どもたちが一人暮らしの高齢者の方に手紙やプレゼントを作成し、地域の方々（民生委員）に届けてもらう！ ⇒ 1学期後半作成、9月以降配布

児童会の運営委員が、各学年の教室で今回の取組や制作の手順等を説明
低学年…主にプレゼント作成
高学年…主に手紙作成



《地域から学校へ》

現在、SDGsの一環として、赤目地域で取り組んでいる「竹あかり」等の竹細工を、小学生に広める取組を進めよう！

- ◎現在、各地域ごとに「竹あかり」作りを行っており、子どもたちが、地域のことや良さを知り得る一つの機会となる。
- ◎子どもたちが、地域が好きになり、将来、住み続けたいと思えるような地域の魅力を発信していく機会につながる。
- ◎6年生に教え、作った作品を卒業式で飾ってみてはどうか。良い思い出になるのではないかな。

つながりが生まれ、スクール・コミュニティ（子どもを核とした地域づくり）へ



冬には、まちづくり委員会主催で
和風を制作し、風揚げ大会開催

夏季休業中に教職員が竹あかりづくりに挑戦

地域の方に支援いただきながら、児童が竹あかりづくりの体験

コミュニティ・スクールだより

第31号

名張市教育委員会事務局発行
令和4(2022)年1月26日

コミュニティ・スクールから スクール・コミュニティへ ～「学校と地域づくり組織等との連携・協働～」

子どもを核とした地域総ぐるみの協働活動 箕曲小学校×PTA×地域づくり委員会×市民センター

箕曲小学校の学校運営協議会は、学校経営方針や学校運営に関わって、各委員が当事者意識を持ち、幅広い視点での意見やアイデアを出し合うことで、学校運営がより円滑に進むようになりました。特に、学校、保護者、地域が「めざす子どもの姿」を共有し、熟議や協議を重ねることで、これまで培ってきた関係を大切にしながら、学校と協働した取組をさらに発展・深化させ、名張版コミュニティ・スクールの3つの柱「学校運営への参画」「学校支援の充実」「地域貢献の場づくり」に係る取組が充実してきています。箕曲小学校の連携・協働した運営や取組の一部を紹介します。

【第1回学校運営協議会の運営の工夫】

〈熟議「これまでの課題と今後の方向性」〉

昨年度までの取組を振り返り、学校や児童の課題を共有し、今後の方向性について、互いに知恵を出し合い協議を深めました。本年度の重点取組として、「あいさつ」「読書週間」「家庭学習」について、学校、地域、保護者の三者がそれぞれやるべきことを確認し合いました。また、「コロナ禍における地域との連携・協働について」もPTA、地域づくり委員会、市民センターが役割分担をしながら計画・実行していくことになりました。更には、様々な取組やすべての活動を通して、子どもたちの「自尊感情」を育むことの確認がされました。

★フンポイントアドバイス★

学校運営協議会において、「**学校基本方針の承認**」を行います。その「承認」とは、**OK「それでいいよ！頑張ってください！」**ではなく、**Let's「一緒にやってみよう！」**ということです。みんなで考え、みんなで決めて、みんなで実践・協働するということです。協力者ではなく、当事者として、同じ方向で一緒に考え実行することが大切です。

〈各委員がタブレット体験〉

授業参観の後、児童が毎朝行っているタブレット端末を活用した健康観察について、各委員が端末を手に触れて体験いただくことで、これからの教育実践について、共通理解が図られました。



コミュニティ・スクールは、学校と地域・保護者が、目的や目標を共有し、その達成や解決に向けて協議を重ねることがなによりも重要！

【第2回学校運営協議会の熟議】

「少人数を生かした学校運営・地域との連携」について、各委員と教職員、保護者が熟議を行いました。



先生方には、日ごろからきめ細やかな指導をいただいている。このことに感謝し、それぞれの持ち場で着実に進めていこう！
それぞれが意識をして声(言葉)をかけていこう！

【学校支援の充実】

①ボランティア交流会

日頃、様々な形で活動するボランティアの皆さんが、つながれる場になっている。

②音遊び、陶芸、しめ縄・かかし作り等の体験教室

地域の方を講師に迎える。

③学校田での米作り

地域の酒米サポーターさんの協力のもと実施。感染症対策により全校での取組を見送ったが、5年生からの発信により、全校児童への意識付けを図ることができた。

④学校の環境整備(草刈り等)、通学路の草刈り

地域の環境部の方が中心に活動。

⑤民生委員を中心に下校をサポート



【地域貢献の場づくり】

①箕曲文化祭(12月)

会場として、学校の体育館を開放。「体験教室」で製作した児童の作品を展示。参加した児童には「箕曲のキラリさんみつけよう」と呼びかける。タブレットで気に入った作品を写真に撮り、感想を添えて提出。児童の感想をまとめ、市民センターに掲示した。

②地域ボランティアによる学習支援「はなもくらぶ」

箕曲市民センターとの協働で、夏休みの3日間学校図書館を開放。「箕曲の紙芝居」「パルレーンアート」「英語を楽しもう」の講座を実施した。

③箕曲探検物語(地域フィールドワーク)

箕曲地域づくり委員会子ども育成部とともに実施。地域への愛着を深める行事として、積田神社にてお気に入りの場所をタブレットで写真撮影し、作品を箕曲文化祭で展示した。

④人権コンサート

PTA・地域づくり委員会共催。感染防止のため、6年生のみが対面、他学年、保護者、地域の方はリモートで鑑賞した。

⑤6年生が市民センターを見学し、センターの役割について学習。「体操サークル」の方とともに活動し交流。



コミュニティ・スクールだより

第32号

名張市教育委員会事務局発行
令和4(2022)年2月16日

名張市小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会 開催

2月7日(月)に名張市小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会を開催しました。この協議会は、地域づくり代表者、保護者代表、代表校長、教頭代表、教職員代表、事務局職員で構成され、各学校の取組の進捗状況や課題を共有し、今後の推進や方向性について検討する目的で開催しています。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、参加者を各中学校区代表校長と事務局担当者に縮小し、感染対策を講じた中での実施となりました。まず、小中一貫教育及びコミュニティ・スクール(以下、CS)の推進状況について事務局から行政報告があり、その後、CSの推進に関して、「学校・地域・家庭の連携・協働の更なる推進に向けて」をテーマに、以下のような協議が進められました。

★学校間の取組の温度差

学校運営協議会の運営及び連携・協働の活動について、各学校の進捗状況や深まりに温度差が見られる現状から、各中学校区及び各学校の課題等を出し合い、共有することから始めました。



【ホワイトボードを活用して、考えを整理し議論を深める】

☆なぜ、CSが必要か？

- ・保護者や地域住民との関わりの中で、子どもを育てることが大切。子どもの実態から課題を共有し、課題解決のためにも必要。学校での教育だけでは限界もある。
- ・夢の実現のため。子どもは地域の宝である。
- ・地域住民と連携・協働することで、教育に厚みが出る。
- ・学校への苦情からの脱却、保護者・地域が学校の後ろ盾となる。
- ・10年後、20年後のよりよい未来をつくるため。
- ・持続可能な社会の実現のため。
- ・名張市の生き残りのため。(意見より一部抜粋)

☆CSは、学校の役に立っているか？

☆CSの充実に向けて推進しているか？



コミュニティ・スクールを 基盤にした小中一貫教育 の実現に向けて



- ・連携・協働した取組から、子どもの成長を感じる。
- ・地域住民とともに活動することで、子どもの有用感が育まれるなど、子どもの姿を感じている。
- ・校長の姿は大きく見えるようになったが、先生方の姿が見えにくい。
- ・目に見える形にすることで、地域住民や保護者も認知度・理解度が上がり、前向きになってきた。
- ・防災訓練等を地域とともに実施したことで、新たに増えてきたこともある。
- ・打ち上げ花火的なイベントではなく、地道な活動や継続した取組が大事。(意見より一部抜粋)

CSの推進(学校・地域・家庭の連携・協働) のための校長の役割とは？(意見より一部抜粋)

◎リーダーシップの発揮

学校運営協議会をどう進めるかは、校長のビジョンや意図、方向性にかかっている。一本の筋の通ったものがあるとうい。

地域住民や保護者、教職員が当事者意識を持って主体性を発揮していく取組が大事！

出てきた意見を実現させ、取組や成果等を発信することが大切！

◎つなぐ役割であり、広告塔

学校、地域が、持続可能な場づくりを意図的に仕組んでいくこと。

そのために、人々、人と学校、学校と地域をつなぐ役割が大事！

広告塔の役割も！

◎仲間を増やすこと

学校運営協議会委員の主体的な意識と取組のためのマネジメントが大切！！

多くの賛同者を増やし、まずは、信頼関係づくりに努めること。

西山教育長より



CSは、学校運営の厚みを増やすためのもの。

校長が学校のめざす子ども像を職員に語れているか？！

コロナだからできない、しないのではなく、共に考えることから始める。

各学校の状況が違うが、現状を踏まえて、次にどのようにステップを進めるか？！

職員の中で語り合いがあるか？！
「子ども愛」「学校愛」

4月のリセットでは遅い！PDCAサイクルをスパイラルで！

◇校長の「カリキュラム・マネジメント」が重要。校長の意図したものに。◇これまでの運営協議会での議論のあり方や熟議の持ち方・内容、協働の取組について、**振り返りと吟味が必要**。何ができて、何ができなかったか。見通しを持ったものであったか。意図したステージへの仕込みが充分であったか。教職員や児童生徒、小中学校の関わり方、何をねらったものかなど、意図した切り口にならなかったか。◇地域とともに仲間を増やし、いかに給(構)を描き、織り成していくか。◇学校・家庭・地域が総ぐるみで、いかに子どもたちが地域を変えていけるか。そのことが、スクール・コミュニティへとつながっていく。

コミュニティ・スクールだより

第33号

名張市教育委員会事務局発行
令和4（2022）年3月9日

『コミュニティ・スクール 実践集2021』発行

本年度のコミュニティ・スクールの特色ある活動や実践を集めた『コミュニティ・スクール実践集2021』を作成しました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、三重県や名張市にまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令されるなど、長引くコロナ禍においても、互いに知恵を出し合い、工夫をしながら実施した各学校の様々な事例をはじめ、来年度以降の推進のためのヒント、また、「コミュニティ・スクール」の連携・協働した取組を子どもを核とした地域づくりである「スクール・コミュニティ」に発展させていくためのアイデア等が満載です。

『コミュニティ・スクール実践集2021』は、名張市公式HP <https://www.city.nabari.lg.jp/> で公開しています。是非ご覧ください。

※名張市公式HP内の掲載場所は下記のページです。
<https://www.city.nabari.lg.jp/s057/010/040/080/20201126154148.html>



コロナ禍においても、子どもの学びや成長のため、「今だからこそ、気付けることがある」、「今だからこそ、できる教育活動がある」、「今だからこそ、鍛えられる力がある」と信じて、学校と家庭、地域が互いに連携・協働するコミュニティ・スクールの推進を図ることが重要と考えます。

今後も各々が当事者意識を持ち、熟議の中で互いに知恵（アイデア）を出し合い、地域づくり組織等と連携・協働しながら子どもの豊かな学びと健やかな成長を支え、学校が地域コミュニティの絆や生きがいつくりの核となるため、よりよい方策を生み出していきましょう。

★未来の創り手を育てよう！ ★子どもはみんなで育てよう！
★学校(社会)はみんなでつくろう！

コロナ禍での学校運営協議会の開催に苦慮 時間短縮、WEB開催、役員開催、書面開催等で工夫

新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大する中、三重県がまん延防止等重点措置期間のため、各学校では、本年度最後の学校運営協議会の開催に苦慮されていました。本来ならば、本年度の学校運営の評価や活動の総括、次年度に向けての方向性等を話し合う重要な機会と考えていたはずですが、オミクロン株の感染拡大状況が収束しない中で、開催を見合わせざるを得ない学校が増えてきました。

次年度における学校運営及びコミュニティ・スクールの取組等のスタートがスムーズに進められるよう、引継ぎや方向性の確認を確実にお願いします。

そのような中で、大きな教室で換気を十分に行いながら感染防止対策を講じた中での開催や、時間を短縮しての開催、参加者を制限しての役員開催や部会長での代替開催、書面での開催等、実情に応じて開催されています。一例ですが、名張中学校では、WEB会議が開催され、約半数の委員がZOOMで参加しました。初めての試みではありましたが、「会議はしておくべき」との声を大切にした結果であり、スライドや動画による提案等、教職員も役割分担をして会議運営に参加する協力体制が見られました。



子どもたちに、今、必要なものは？！

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、改めて学校・家庭・地域の役割分担や連携・協働することの重要性が浮き彫りとなってきています。

保護者や地域住民の皆さんが「当事者」として学校運営に参画し、めざすべき目標を共有し、その目標達成のための十分な熟議・協議をしたうえで、学校と家庭・地域が連携・協働して対処することができる体制を制度的に保障していることに、コミュニティ・スクールの意義があります。

コミュニティ・スクールは、学校・保護者・地域住民で「共に創っていくもの」=「共創」ではないかと考えます。これからの社会を形成する子どもたちが、自らの人生を切り拓いていくためにも、教育課程の改善・充実や特色のある学校づくりなど学校運営には、各々が主体性を持って対話に基づく相互尊重が求められます。

継続してこそ、信頼関係が築かれ、継続してこそ、成果が表れてきます。更には、立場を越えたつながりが生まれてくるはずです。

このようなことから、もう一度原点に戻り、「子どもたちに、今、必要なものは？！」、「子どもたちに、今、必要な力は？！」、「それぞれが何をすべきか？」…と互いに議論してみてもいいのではないでしょうか。

主体性

信頼

共創

継続

つながり



学校・保護者・地域の代表が、学校の運営などを話し合うために設置される「学校運営協議会」。つつじが丘小学校・南中学校では、つつじが丘・春日丘自治協議会の中にある「子ども育成委員会」とも連携し、学校の課題や「目指す子どもの姿」などについて話し合い、互いの立場でできることを考えています。



地域の温もりを感じる学校へ

進んでいます！「コミュニティ・スクール」の取組

「子どもたちのために何ができるか」を地域全体で考え、実現していく。その過程の中で、子どもの「生きる力」を育み、地域の未来をも切り拓いていく。それが「コミュニティ・スクール」の取組です。

令和2年度には、市内全ての小中学校が「コミュニティ・スクール」となり、その活動は充実してきています。今号では、市内初の「コミュニティ・スクール」となった南中学校区の、地域貢献の取組の一つを紹介します。

図 教育総務室 63・7849

市内初となる南中学校区「コミュニティ・スクール」の取組

学習支援や学校美化、安全確保支援など、これまでも地域の皆さんに学校を支援いただいていたが、「コミュニティ・スクール」は、学校の教育方針や目標に向けて、地域住民が積極的ににかかわる新しい仕組み。市内全ての小中学校には、教職員、保護者、地域住民などが思いを共有する場「学校運営協議会」が設置されています。市内初の「コミュニティ・スクール」となったのは、南中学校区(つつじが丘小学校・南中学校)。平成29年4月のことでした。南中学校区では小中一貫教育を実施していることから、「学校運営協議会」も一本化。また、平成30年には、子どもたちが自分たちの地域に誇りを持って語れることを目標に、生徒らと地域の代表が話し合う「つつじが丘会議」が発足しま

した。「コミュニティ・スクール」の取組の一環として、ツツジの葉をイメージした地域のゆるキャラ「えみらる」を制作したり、子どもたちが地元のイベントに出店し世代間交流を図ったりする事業に取り組み、文部科学大臣表彰も受賞。話し合われた内容が、次々に実現されています。

小学生考案の「お弁当」がスーパーで販売された！

昨年3月、つつじが丘小学校の近くのスーパーで、子どもたちが考案したお弁当が販売されました。その名も「えみらる風弁当」。このお弁当もまた、「コミュニティ・スクール」の取組から生まれたものです。つつじが丘小学校の6年生は、家庭科の授業で「弁当」について学びますが、コロナ禍で調理実習が中止に。子どもたちからは、「調理実習の代わりに、新型コロナウイルスの

「コミュニティ・スクール」の取組で、子どもたちの地域への思いが詰まった心温まるお弁当が誕生！

※販売は終了しています



昨年3月に、団地内のスーパーで売り出された地域のゆるキャラがデザインされた子どもたち考案のお弁当。エビフライやからあげなど、子どもたちの好物がぎっしり詰まっていて、卒業生が菓子店とコラボして作ったきな粉入り「かたやき」も入っています！

ラベルには児童一人ひとりによる「コロナにうち勝て!!」などの手書きのメッセージが添えられ、子どもたちの地域を思う気持ちも一緒に詰められています。





教科書にはない「生きた学習」を

子どもたちは、自分たちが地域で取り組みたいことを考え、地域の人と一緒に「実現」に向けて活動していく。まさに、教科書では学ぶことができない「生きた学習」です。

学校運営協議会を通じて、民生委員児童委員、学校ボランティア、老人クラブなど、地域のいろいろな立場の人と「目指す子どもの姿」を共有しながらともに活動できるので、学習の幅もぐんと広がっていきます。

つつじが丘小学校 校長 上谷 典秀



感染が広がる中、地域の人が元気になるような何かがあれば」といった提案がありました。子どもたちが、授業でお弁当メニューのアイデアを考え、「コミュニティ・スクール」の取組として、そのお弁当を地元のスーパーで売り出すことができれば。栄養教諭の北中先生はそう考えました。早速、「学校運営協議会」で、「コロナに負けず元気で笑顔になろうプロジェクト」として取り上げられ、6年生が考えたお弁当のアイデアを聞いてもらおうと、学校の近くのスーパーに協力を打診。快く協力いただけることとなり、さらには、スーパーの総菜担当者によって、弁当のメニューを考えるうえで必要となる原価計算や色合い、人気の具材などについての授業も行われました。

子どもたちは、栄養バランスにこだわった「コロナに負けない弁当」や、名産品のいちごや野菜などを取り入れた地産地消弁当などアイデアを出し、地域の人やスーパーの担当者前、そのアイデアを発表。コストなどを考慮して、「えみらる風弁当」が誕生しました。包装紙には「コロナに打ち勝て」などのメッセージも添え、昨年3月、実際にスーパーで売り出されることになりました。一日限定15食、合計100食。そんな販売目標を掲げ、迎えた弁当販売日。弁当が売れるかどうか、子どもたちは不安だったそう。しかし、店頭には長蛇の列！あつという間に完売し、300食の追加注文が舞い込みます。子どもたちは、追加注文に驚き、喜びながら、

率先してお弁当の包装紙にメッセージを書き込んでいきました。未来を生きる子どもたちが、少子高齢化、グローバル化、デジタル社会など激しい社会の変化に対応していくために、子どもたちの自ら学び考える行動する「生きる力」はますます重要となつていきます。「コミュニティ・スクール」の取組により、学校の中だけではなく、地域社会を舞台に子どもたちが活動することで地域に誇りを持ち、地域の人の温かさに触れる中で、「生きる力」も育まれているのです。

学校を核とした地域づくりに子どもたちの力を！

昨年12月、つつじが丘小学校で6年生と地域づくり組織との懇談会が開かれ、交通安全やごみ問題、空き家対策などについて話し合われました。児童は地域の課題を調べ、ごみ拾いイベントの実施や「えみらる」をデザインした交通事故対策の反射材を作ることなどを提案。行政への要望や自治会での取組などが検討されることとなりました。



自分たちが取り組んだ成果が目に見えて現れる。そんな貴重な経験が自信に！

これまで手を挙げて発言しようとしなかった子が、地域の人たちとの学習や発表の場では、積極的に自分の考えを発表し始めたんです。これには驚かされましたね。子どもたちの提案に対して、地域の人々が、実現に向けて取り組んでいこうと真剣に話を聞いてくれるので、すごくやりがいを感じているんだと思います。

お弁当の販売をはじめ、自分たちが地域で取り組んだ活動が成果として見えることで、「やればできるんだ」という子どもたちの自信になっている。地域ぐるみのこうした取組が、「生きる力」を育てていくことにもつながっていくはずです。

つつじが丘小学校 栄養教諭 北中 一枝



子どもたちが「地域のために」って、やる気になってくれるから、私らも燃えてくる！

お弁当を作って売りたいと聞いた時は、「売れるかな」と心配していましたが、地域の皆さんが、子どもたちの思いに賛同して、たくさん購入してくれました。

子どもたちは、一生懸命に地域の課題を調べ、「交通安全を呼びかける看板を作りたい」「空き家や空き地を有効利用できないか」などと提案してくれます。子どもたちも、地域のために力を発揮してくれる一員であり担い手。私たちも一緒になって実現できないか考えます。子ども目線だからこそ気付けることもありますね。

それに、子どもたちの目は真剣そのもの。「地域のために」とやる気になってくれるから、私たちも自然と燃えてくるんです。

つつじが丘・春日丘自治協議会 理事 片山 榮二さん



市内の各小中学校でも、それぞれ「コミュニティ・スクール」の充実に向けた取組が進められています。市ホームページで、各校の取組を紹介した「コミュニティスクールだより」や「実践集」を掲載していますので、ぜひご覧ください。

教職員にとって



学校教育の幅が
大きく広がります

- ▶ 地域の皆さんの理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になります。
- ▶ 地域の人の経験や知識・特技を学校教育に生かすことができます。
- ▶ 地域の協力により、子どもと向き合う時間が確保できます。

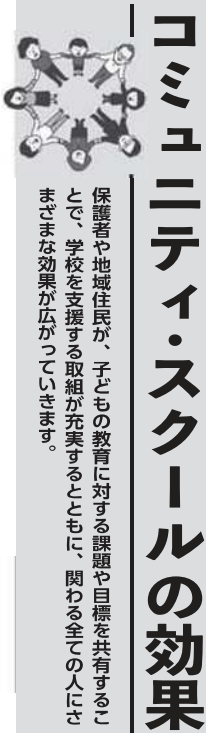
地域にとって



子どもたちの
笑顔が何よりの
報酬かな

子育て世帯と
つながれる
いい機会ね

- ▶ 経験を生かした活動は、生き甲斐にもなります。
- ▶ 学校が社会的につながり、地域のよりどころになります。
- ▶ 学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域課題の解決につながります。



保護者や地域住民が、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人にさまざまな効果が広がっていきます。

コミュニティ・スクールの効果

子どもたちにとって

- ▶ 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- ▶ 自分に自信が持てたり、人を思いやる心が育れます。
- ▶ 地域の担い手としての自覚が高まります。
- ▶ 地域の人と顔の見える関係を築くことで、防災・防犯につながります。



自分のふるさと
が好きになったわ

ボクも地域で
できることがある!

保護者にとって

- ▶ 学校や地域に対する理解が深まり、家庭での教育にも良い効果が生まれます。
- ▶ 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- ▶ 保護者同士や地域の人との人間関係が築けます。



地域の皆さんの
温かい対応に感謝

地域の人を
知るいい機会に
なったよ

地域と子どもたちとの温かいつながりは名張だからこそ！ 今後の「コミュニティ・スクール」の取組に期待しています



「学校と地域の懸け橋になりたい」との思いで、昨年4月に地域おこし協力隊(薦原地区担当)として着任。情報発信などに取り組んでいます。

初めて薦原小学校を訪ねた時のことです。「今日は何しに来たん?」「名前は何ていうの?」って、児童が積極的に話

地域おこし協力隊 長谷川 未紗さん

2児の母。昨年、名張に移住し、地域おこし協力隊員としてSNSや手作りの広報紙などで、小学校や保育所・地域の行事など、薦原地域の情報を中心に発信しています。東京では、中学校の教員を務めていました。

しかけてきてくれました。東京では、「どんな人があるか分からないから知らない人に声をかけないように」って教えていましたから、すごく驚きました。

移住して感じた名張の魅力は、地域の人や、親戚のおじちゃんやおばちゃんみたいに、子どもたちに接してくれる温かさ。学校が所有・管理する「学校林」での自然学習にも参加していますが、遊具の整備や維持管理なども含め、学校ボランティアの協力があってこそその活動だと言えます。

こうした土地柄だからこそ、「コミュニティ・スクール」の取組は、これからもっと進化していくのではないかと期待しています。親としても積極的にかかわっていききたいですね。

地域おこし協力隊の
活動はこちらから



令和4年度から

小中学校の夏休みを短縮し、 土曜授業を廃止します

授業時間確保のために、令和4年度から、小中学校の夏季休業日を3日間短縮します(7月21日～8月28日)。

これに伴い、小中学校の土曜授業(令和3年度は4回実施)のあり方については、PTA・教職員などの各代表者・教育委員会関係者らで構成する「土曜授業検討委員会」で検討を重ねた結果、廃止することとしました。なお、防災訓練など、学校と地域とが一緒に行う行事は、振替授業として実施していきます。

☎ 学校教育室 ☎ 63-7882



登下校時の見守りや除草、クラブ活動への支援など

「学校生活支援ボランティア」を随時募集しています

登下校時の見守りや校舎の補修・除草、学校図書館・クラブ活動・教科学習への支援など、地域の皆さんの経験や知識・特技などを学校教育に生かしていただく「学校生活支援ボランティア」を随時募集しています。地域ぐるみで子どもたちを育ていきましょう!

◎詳しくは、問合せ先へ

☎ 学校ボランティア室(教育センター内) ☎ 64-8864



「放課後児童クラブ」の 補助員を募集(学生可)

放課後児童クラブで、宿題や遊びの見守り、読み聞かせなどの支援をしていただけませんか。

登録資格 18歳以上(高校生は除く)

登録方法 市販の履歴書に写真を貼り、郵送または市役所1階子ども家庭室(〒518-0492 鴻之台1-1)へ ◎詳しくは問合せ先へ

☎ 子ども家庭室 ☎ 63-7594



令和4年度 市内小中学校の 「学生教育サポーター」募集

小中学校などで教育活動を支援いただける大学生を随時募集中です。自身の資質向上にも!

活動期間 下記の期間中の、決まった曜日

▼前期: 4月6日～9月30日

▼後期: 10月1日～令和5年3月25日

◎交通費など支給。詳しくは、問合せ先へ

☎ 学校教育室 ☎ 63-7882